第11回公立大学法人神戸市看護大学評価委員会

１．日　　時　　令和６年５月１７日金曜日　１６：０１～１７：２８

２．場　　所　　三宮研修センター８０５会議室

３．出席者

○委　員　　松田委員長

高見沢委員、船山委員、松山委員、丸山委員

○看護大学　北理事長、江川学長、永田本部長　他

○事務局（神戸市）　健康局　花田局長、三川副局長、梅澤病院等調整担当課長　他

開会

４．議事

第2期中期目標（案）の策定について

（第2期中期目標（案）について事務局から説明）

○委員長

災害や感染症の大きなパンデミックなどは、これからも予想されるので、それに対応できる項目を入れるということは大事だと思うのですが、具体的なイメージは何かあるのでしょうか。

○看護大学

現在も災害看護に関しては、授業を行っておりますが、より強化した実践的な演習が行えるように計画をしています。

感染看護に関しては、感染に対する専門家が本学にはいない状況なので、コロナを経験した感染の専門看護師や、認定看護師の話や、地域の保健師に実際の対応の話を聞くなど、専門家の協力を得ながら感染について深めていこうと考えております。

○委員

災害看護と感染看護に関しては、大学院教育でしていくということではないのですか。

○看護大学

災害看護に関しては、もう既に大学院で教育を行っておりまして、大学院で２年生が１名、１年生が３名いるような状況でございます。感染に関しては、大学院での教育は行っておりません。感染の専門ではない教員が自分で勉強しながら学生に教育をしているような状況ですので、やはりそれではなかなか感染に強い人材は育ちません。

○委員

何年かの長期的スパンの中で、大学院での教育を検討いただければありがたいと思います。

○委員長

焦点は学部教育だと思うので、学部教育の中で感染について、「これは大変だ、これは面白い」という講義を学生のカリキュラムの中でやるべきではないでしょうか。

学部教育でいかに災害看護や感染看護に対して、学生のモチベーションを上げていくかということが大事だと思います。

○看護大学

災害看護論の演習の中では、「避難所をどのように開設して運営していくのか」ということを学生に考えてもらう机上訓練を行っています。感染看護も同じで、単に技術演習だけではなくシナリオを設定して、学生に考えさせるというような、机上訓練的な要素が必要になってくると思っております。

○委員

災害と感染を今度はドッキングして災害支援という位置づけになったので、絶対

的な底上げは学部の中で本当に必要なことだと思う。地域人材の育成として、そこを加味していただければと思いました。

○委員

兵庫県立大学が授業料免除等を検討している中、優秀な学生の確保について、神戸市看護大学でも受験者数確保の状況を把握して、対策を検討できるような指標があったほうが安心と思っていますがいかがでしょうか。

○看護大学

優秀な学生の確保については、公立大学の学長会議の中でも、「単科で地方の大学は、18歳人口の減少の影響をもろに受ける」と言われています。そこで、単科大学ならではのきめ細かな学生支援や学生教育をいかに魅力的なものにしていくかがポイントと考えております。

また、学士編入という形で、大学を卒業した社会人を、本学に受け入れていくことも検討しています。大学を卒業して社会人になった人が看護職を目指したいという場合に、受け入れをしている大学は少ないです。そこに関してはニーズがあるので、社会人を、どのようにして大学の中に学生として取り込んでいくのかということが一つの課題と思っております。

さらに、私費留学生の特別入試を行っておりますが、語学の問題もあり、受験生が少ない状況です。外国人の留学生の人数をどのように増やしていくのかといったようなことは今後の課題として考えているところでございます。

○委員

看護大学は男子学生があまりいないが、共学で設置しているから、トイレなど設備的に無駄になっている状態になっていると思います。共学の設備が整っているのだから、男性のマーケットを狙ったような学生募集を考えられたらどうかと思います。

市内就職率向上のための病院での実習については、効果があがっていると聞いて

いますが、厳しい病院での実習ばかりではなく、学生が市内就職を前向きに考えられるような方法を考えていただきたい。

業務運営に関しては、プロパー職員の採用は進んでいるのでしょうか。

また、規程が現状に即していないので見直すということだったと思いますが、まず規程を見直したうえで、決められた規程を必ず実行するという習慣をつけていただきたい。

規程を守るためにはモニタリングをしないといけないので、そういうシステムも導入していただきたいと思います。

○看護大学

業務運営に関しては、プロパー職員の採用は今年度から４名採用しております。２０２８年までに１名ずつ採用し、最終的にプロパー８名という形での体制を今のところ考えており、即戦力として大学を支えていく人材として育てていきたいと思っているところでございます。

規程については大学内の法律なので､これを遵守していくという部分もあります。

一方で、実務的なところで、実際の実務の効率性や実態などを鑑み、吟味をしたうえで、規程自体を変えて、最終的に規程に沿った形での事務が行われるといった形で実施できるように進めているところです。今回採用したプロパー職員も含め、事務職員、教員にも我々の大学の規程が、一体どのようになっているのかということをまず周知徹底し、努力をしていきたいと考えております。

○委員

規程について、チェックリストなどでモニタリングできるような、内部監査室はあるのでしょうか。

○看護大学

今年度から時限的でありますけれども、内部統制システム担当のラインを設けているところです。

○委員長

大事なところをいくつか提案されたので、工夫してこの計画案に盛り込んでいただきたいと思います。

○看護大学

追加で男子学生の件と、市内就職率向上に向けての実習の件について説明をさせていただきます。

男子学生に関しましては、０人という学年のほうが珍しい状況です。多い学年だと定員１００名のうち７名ぐらいが男子学生という学年もあり、平均的には４名から５名、男子学生がいるような状況です。男子学生にターゲットを絞るというような発想はこれまでなかったので、今後検討させていただければと思っております。

市内就職率向上に向けての実習に関しては、それぞれの病院の特性がありますので、学生に自分に合った病院を選んでいただければいいと思っております

○委員長

学生の就職先に対する意向はどのようなものなのでしょうか。

○看護大学

入学時の面接や、学生の話を聞くと、まず急性期病院に行ってから訪問看護に行きたいという学生が増えたなという実感はあります。

キャリア支援室に看護職のＯＢが来て、丁寧に面接で聞き取りしているので、学生個々のニーズは最近すごく多様化してきた実感としています。

辞めることのないように、最初の病院のアタッチメントを丁寧にすることを心がけております。

○委員長

学生がどのように考えているかということは、統計でずっと変わってきているので、データに残しておき、その辺を把握して就職のことを考えていくということが大事だと思います。

○委員

市内就職率は上がっていると報告を受けていますが、以前はもっと低かったのでしょうか。

○看護大学

そうですね。市内就職につきましては、我々のほうも、実際に神戸市内の病院を訪問することで、病院と大学との間で顔の見える関係をつくっております。そのようなつながりができてきた結果が、今の65％という市内就職率になっていると思っております。

当然、市内就職の奨励金という制度もできておりますので、そういったことも呼び水になっていると考えております。

○委員長

感染の専任の教員がおられないというのはちょっと寂しいです。感染の専任の教員の確保について明記してほしいと思います。

○看護大学

中期目標として考える以上は、感染の専門家を専任教員として確保できるような体制を神戸市と相談して作っていければと思っております。

○事務局

災害や感染症のことで人材育成するのに予算が一番の問題ということであれば、もちろん予算については我々として考えさせていただきます。今までよりもレベルアップした人材育成の計画を見せていただいた上で、市として予算を考えていきたいと思います。

○委員

看護大学は単科の強みがあるということを言われていましたが、ほかの医療系大学の学生や、専門学校の学生たちと多職種連携のケースディスカッションを体験し、視野を広げるというところでトライしてもらったらうれしいと思いました。

○看護大学

単科大学ではありますけれども、多職種連携は重要と思っておりますので、二つの科目を置いております。ただ必修ではないので、次のカリキュラムでは多職種連携の強化も含めて考えさせていただきたいと思います。

○委員長

カリキュラムを組んで講義をするのでは、現実と全然違うので、各職種が発言し合うような多職種連携の実習は非常に大事です。

中期目標の中にも「多職種連携」という言葉は必要と思います。

○委員長

それでは、大体ご意見をいただいて、大学の方との意見交換もできましたので、本日予定された議題は以上ですけれども、何かほかに委員の方からご意見はございますでしょうか。

○事務局

本当に本日は皆様お忙しい中、お集まりいただきまして、貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございました。今後とも法人並びに大学の運営に引き続きお力添えのほどよろしくお願いいたします。

閉会

○委員長

ありがとうございました。